

本日の論点

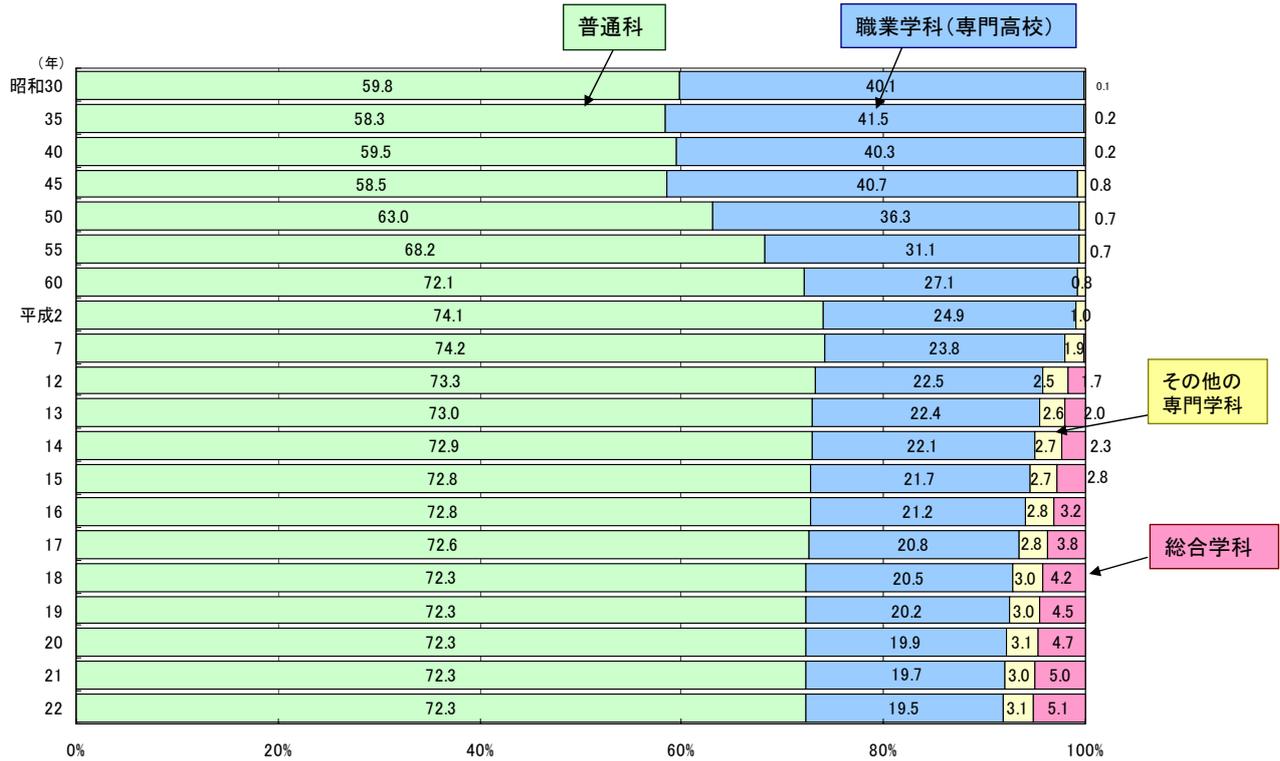
1. 個々の生徒の学習進度・理解等に応じた学びのシステムの構築

- 生徒一人一人の能力・適性等や卒業後の進路に対応した高校教育の在り方をどうすべきか。

- 高校教育での生徒の学力をどのように保証するか。

学科別生徒数の構成割合の推移

職業学科の比率は年々減少。普通科は最近20年間、ほぼ一定(約7割)で推移

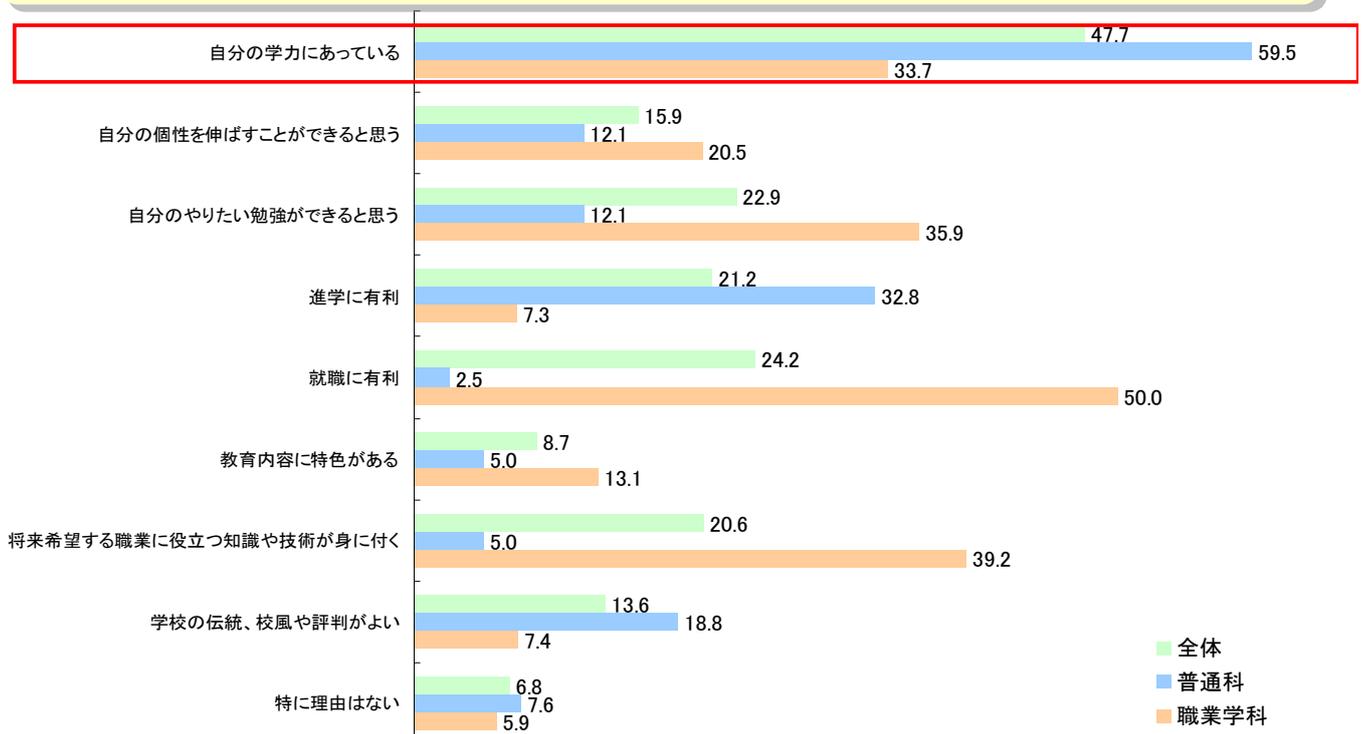


※総合学科は平成6年度より制度化。「その他の専門学科」には、理数、体育、音楽、美術、外国語、国際関係等の学科がある。

文部科学省「学校基本調査」

高等学校に入学した動機(学科別)

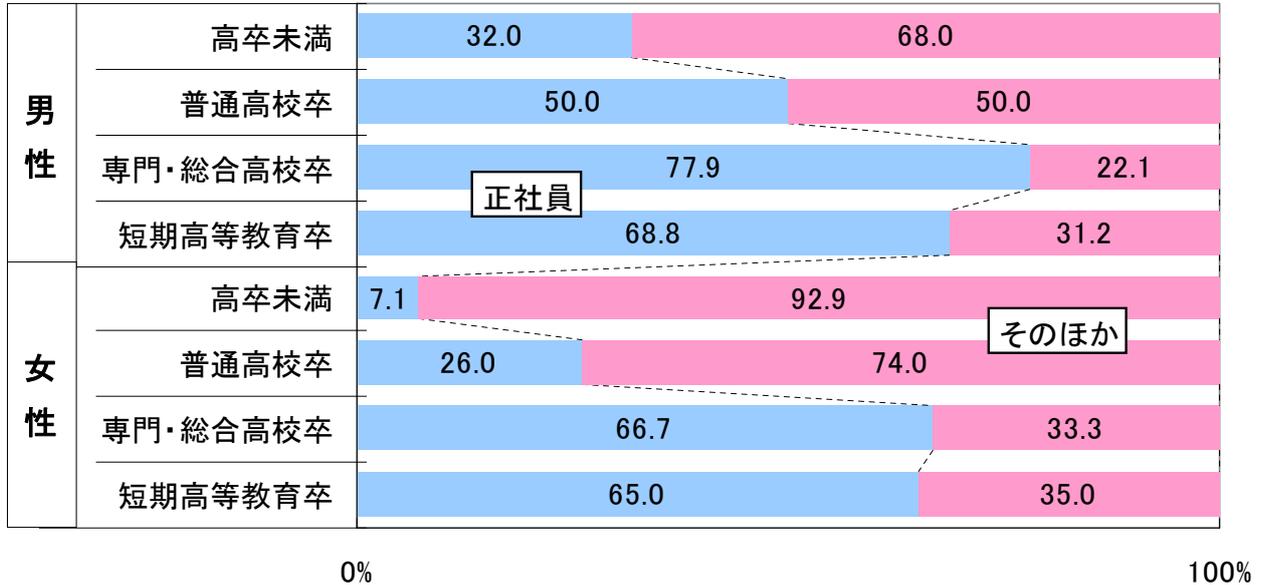
普通科の生徒の約6割は「自分の学力にあっている」と回答し、自分の個性・やりたい勉強とはあまり結び付いていない。これは、職業学科と比べて顕著



(出典) (財)日本進路指導協会「中学校・高等学校における進路指導に関する総合的実態調査」(文部科学省委託)

学歴別の正社員割合

専門学科・総合学科卒の方が、普通科卒よりも正社員比率が高いことを示す調査がある

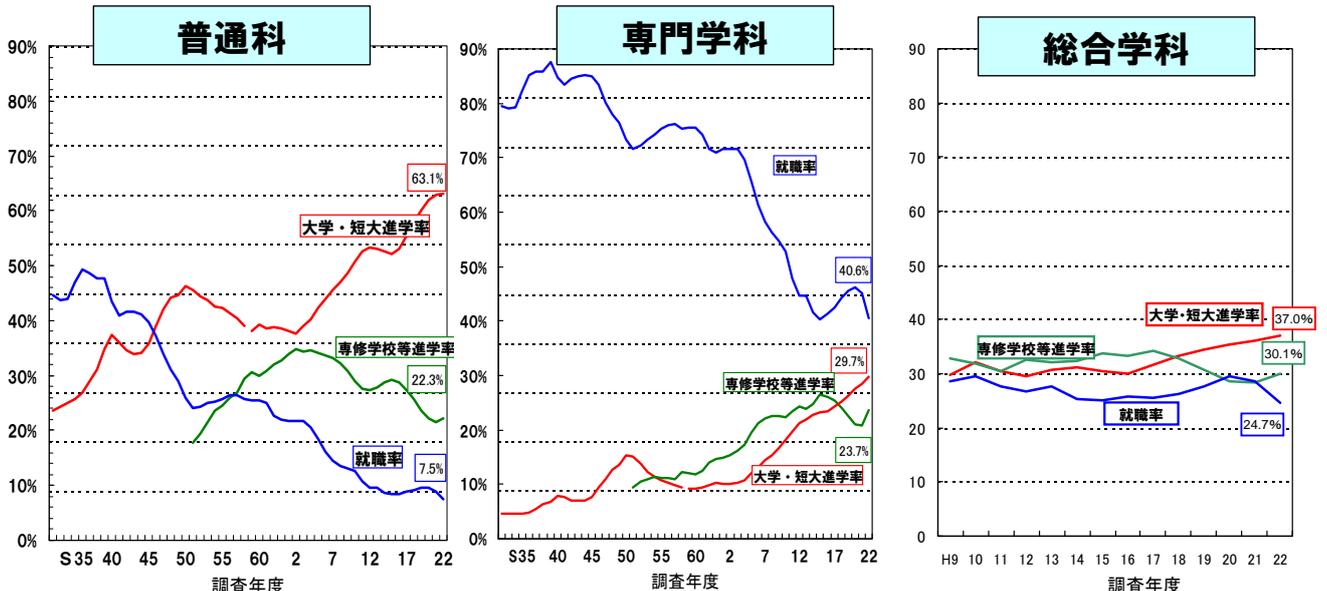


※ 平成19年度に、21歳となる者(約1,700名)を対象に行ったサンプル調査の結果に基づき集計。

資料：「若者の教育とキャリア形成に関する調査(2007年第1回調査報告書)」
(日本教育学会特別調査研究「若者の教育とキャリア形成に関する研究会」)

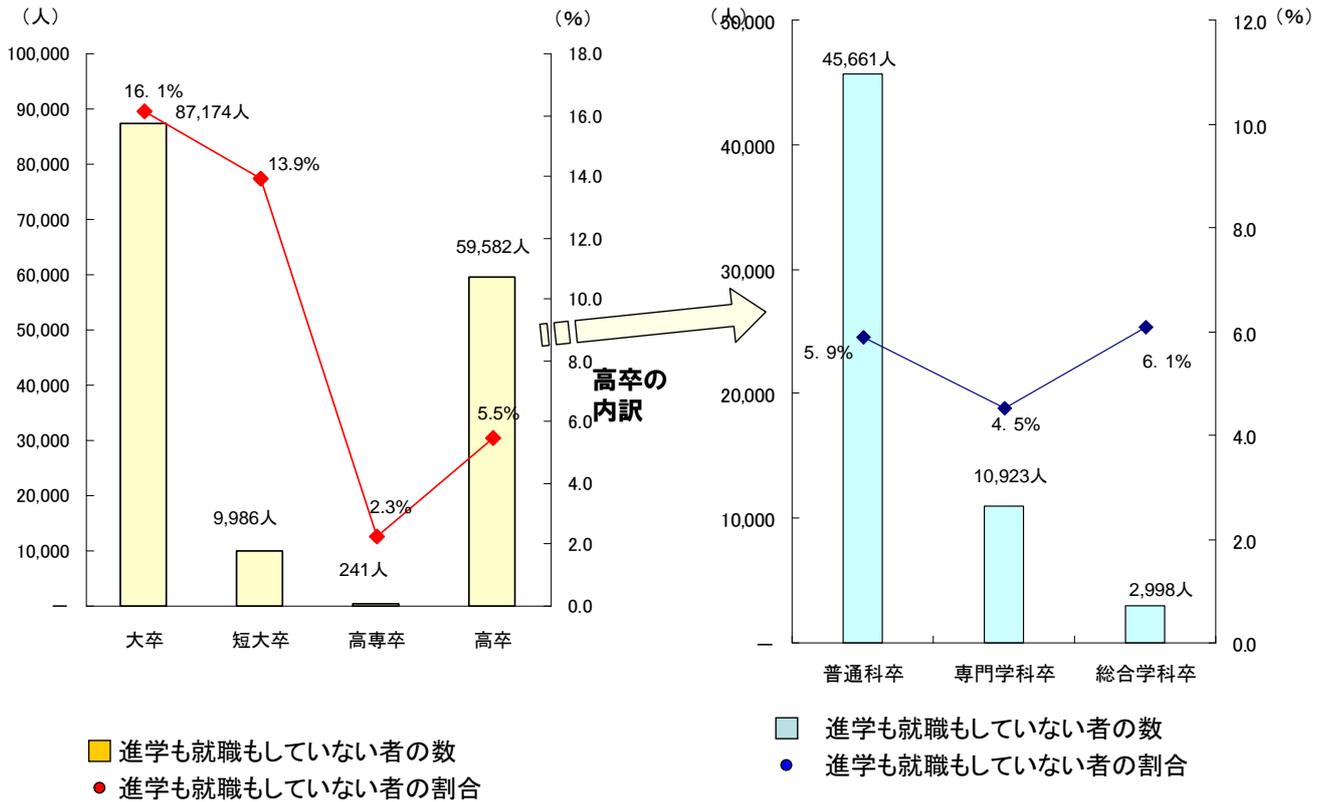
高等学校卒業者の進路の推移 (普通科・専門学科・総合学科別)

普通科、専門学科ともに大学・短大進学率が上昇している。
専門学科卒業生の進路では、依然として就職する者が最も多い。



- ※ 全日制・定時制のみ
- ※ 専門学科は「職業学科」と「その他の学科」の合計
- ※ 「専修学校等」は、専修学校専門課程、専修学校一般課程、公共職業能力開発施設等を指す。
- ※ 「大学短大進学率」は、昭和58年度以前は通信制への進学を除いており、厳密には昭和59年度以降と連続しない。

卒業後、進学も就職もしていない者の状況



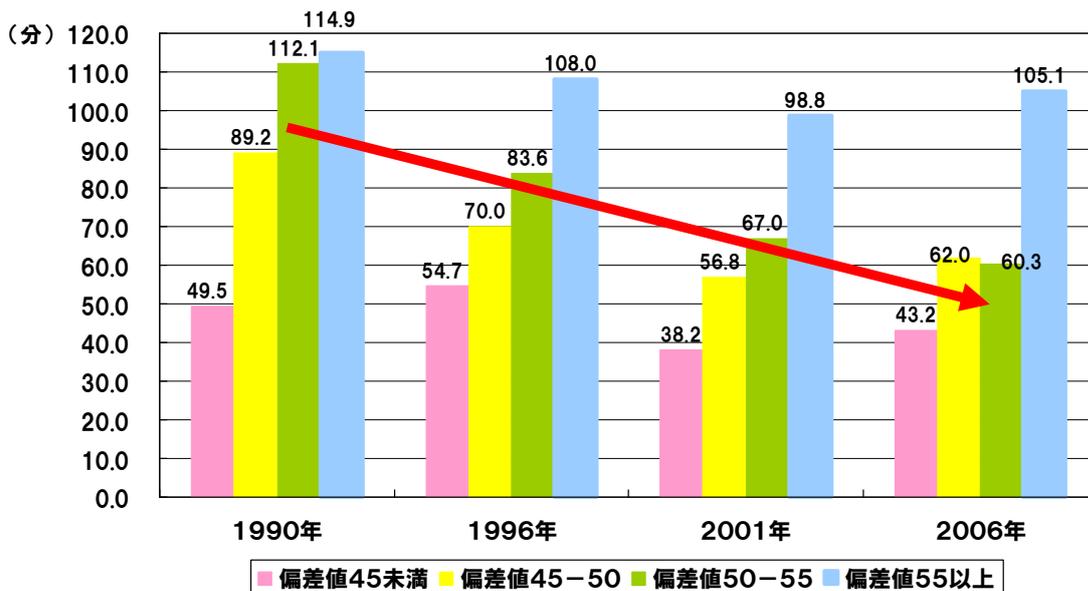
※ 平成22年3月卒業生
 ※ 専門学校についてはデータ無し

資料: 文部科学省「学校基本調査」

5

高校生の学校外における平日の学習時間の推移

ボリュームゾーンである中間層の勉強時間が大きく減少している。

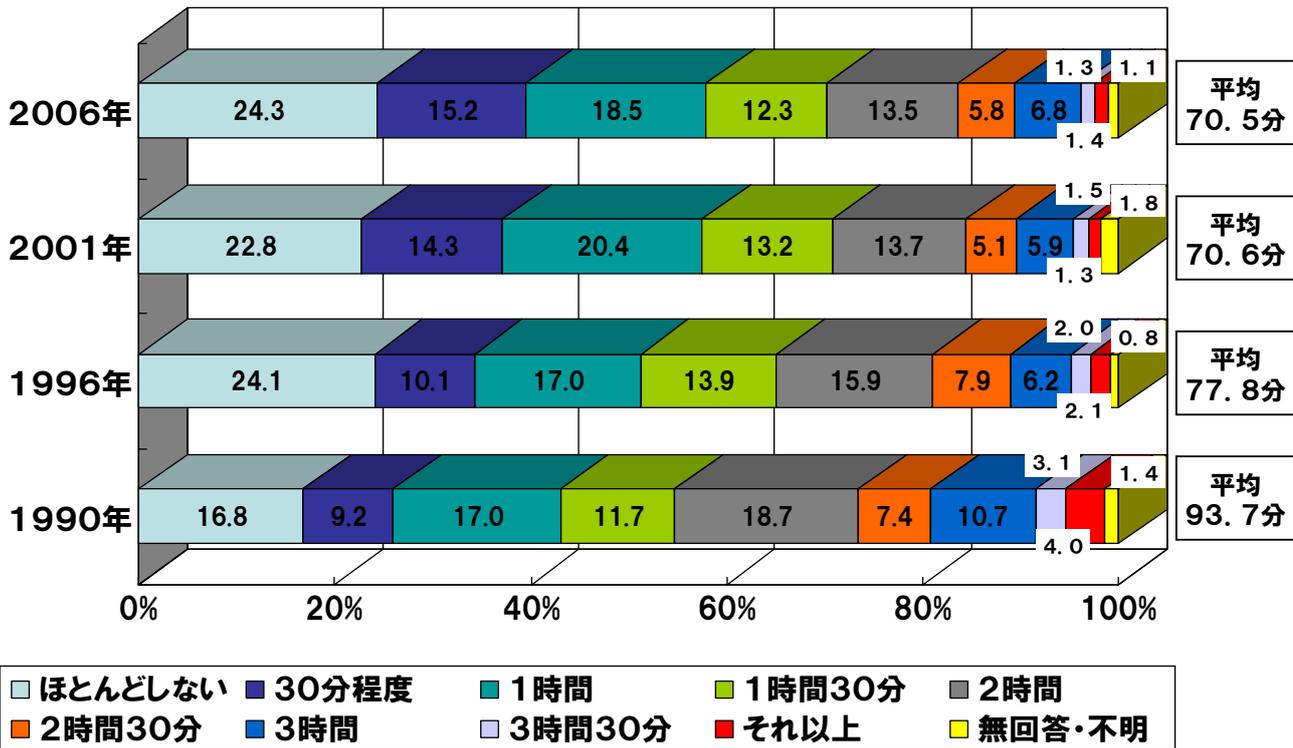


(※) 学習時間には、学習塾や予備校、家庭教師との学習時間を含む

【調査概要】高校2年生(普通科)4464人を対象に、全国4地域(東京・東北・四国・九州地方の都市部と郡部)で実施。
 (出典)Benesse教育研究開発センター「第4回学習基本調査」

6

「ほとんどしない」、「30分程度」の割合が増加し、2時間以上の割合が減少。
 平均的な学習時間は約90分(1990年)から約70分(2006年)まで減少している。

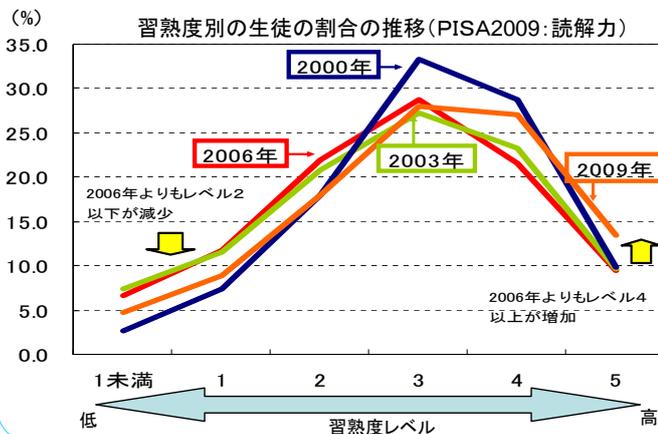


【調査概要】高校2年生(普通科)4464人を対象に、全国4地域(東京・東北・四国・九州地方の都市部と郡部)で実施。
 (出典)Benesse教育研究開発センター「第4回学習基本調査」

PISAから見た児童生徒の状況

● 学習意欲・学力向上等が喫緊の課題

- ・読解力について、PISA2009では、PISA2006比べて、レベル2以下の生徒の割合が減少し、レベル4以上の生徒の割合が増加
- ・しかし、トップレベルの国々と比べると下位層が多い。



【PISA生徒質問紙の結果】

- ・「趣味で読書をすることはない」生徒の割合 (日本:44%、OECD平均:37%) 【PISA2009】
- ・「科学について学ぶことに興味がある」生徒の割合 (日本:50%、OECD平均:63%) 【PISA2006】
- ・「数学で学ぶ内容に興味がある」生徒の割合 (日本:33%、OECD平均:53%) 【PISA2003】

各国の読解力の習熟度レベル別割合(PISA2009)

	レベル1以下	レベル2	レベル3	レベル4以上
日本	13.6%	18.0%	28.0%	40.4%
韓国	5.8%	15.4%	33.0%	45.8%
フィンランド	8.1%	16.7%	30.1%	45.1%
香港	8.3%	16.1%	31.4%	44.3%

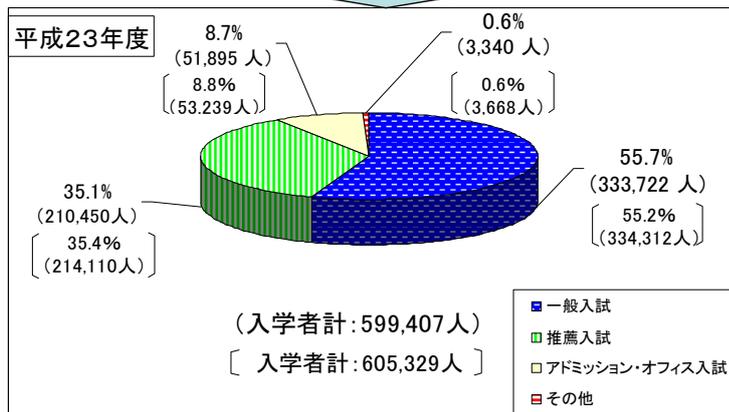
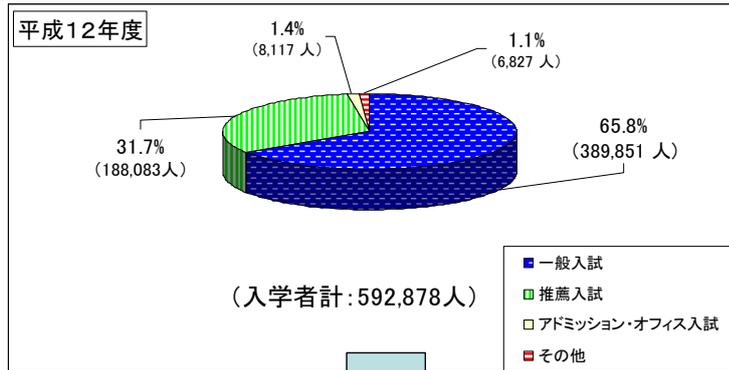
【2020年までに実現すべき成果目標】～ 新成長戦略(H22.6.18閣議決定)

子どもの学力と挑戦力の向上:OECD生徒の学習到達度調査等で世界トップクラスの順位

- ①最上位国の平均並みに低学力層の子どもの割合の減少と高学力層の子どもの割合の増加
- ②「読解力」等の各分野毎の平均得点が、すべて現在の最上位国の平均に相当するレベルに到達
- ③各分野への興味関心について、各質問項目における肯定的な回答の割合が国際平均以上に上昇

平成23年度国公立大学入学者選抜実施状況の概要

平成12年度(AO入試調査開始年度)に比べて、AO入試、推薦入試を経由した入学者が大きく増加しており、入試方法の多様化が進んでいる。

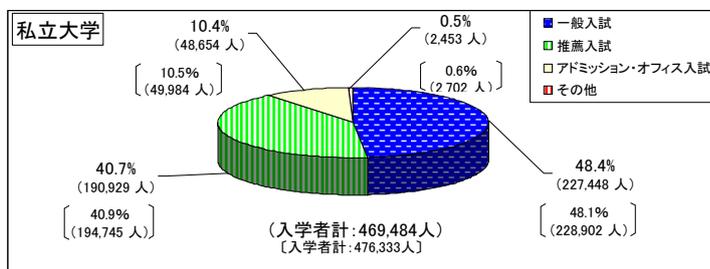
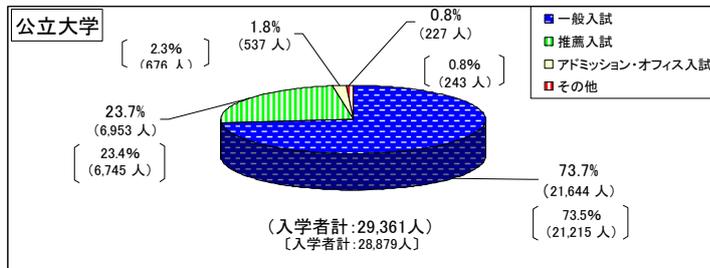
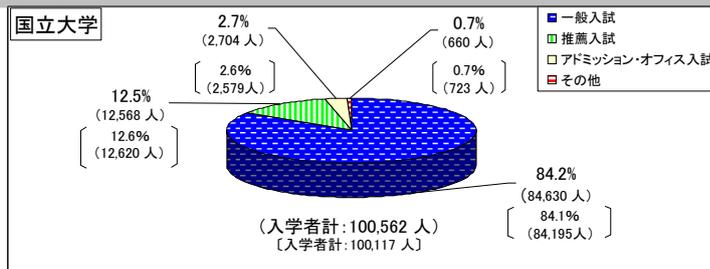


※ []内は、平成22年度の数値を示す。
(注)「その他」: 専門高校・総合学科卒業生入試、社会人入試、帰国子女・中国引揚者等子女入試など

出典: 文部科学省大学入試室調べ 9

平成23年度国公立別選抜方法入学者数の割合

国公立大学では一般選抜が中心。私立では約半数がAO入試・推薦入試を経由して入学している。

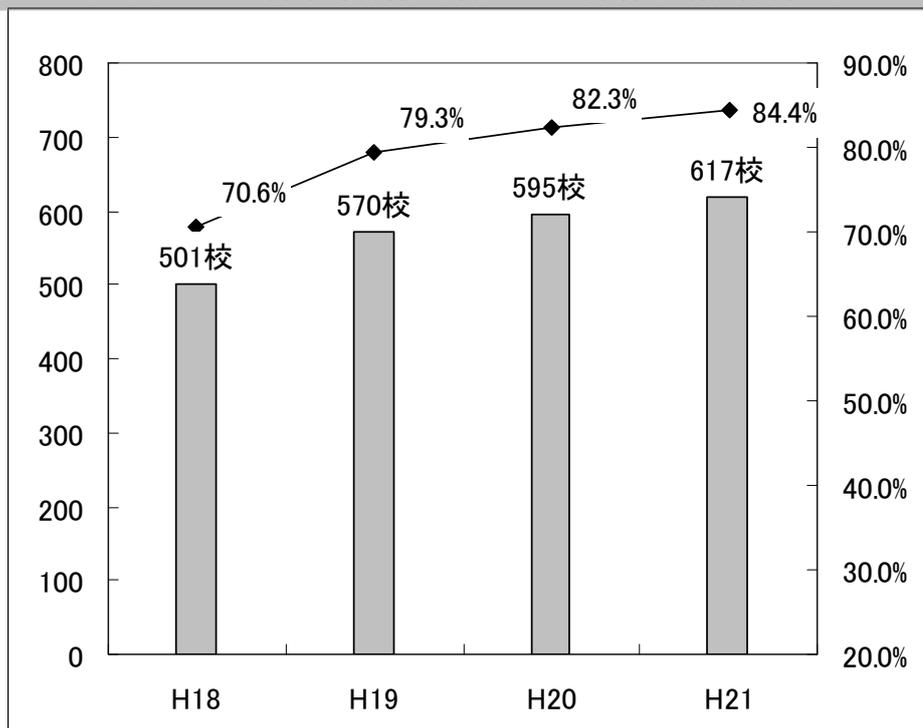


※ []内は、平成22年度の数値を示す。
(注)「その他」: 専門高校・総合学科卒業生入試、社会人入試、帰国子女・中国引揚者等子女入試など

出典: 文部科学省大学入試室調べ10

初年次教育を導入する大学数及び割合の推移 (H18-21)

初年時教育を導入する大学数は増加傾向



「大学における教育内容等の改善状況について」より作成

11

学力保証（高校教育段階）に関する過去の答申（抜粋）

学士課程答申(平成20年12月24日 中央教育審議会)

第3節 入学者受入れの方針について ～高等学校段階の学習成果の適切な把握・評価を～

1 入学者選抜

(1) 現状と課題

① いわゆる大学全入と高等学校教育・大学教育の新たな課題

(ウ) (一部略)

また、高等学校では、これまでのように、大学入試の存在自体が大学進学希望者の学習意欲を喚起し、高等学校の指導と相乗して学力を定着させることが困難になりつつあるという、入試方法の改善では解決できない問題も指摘されている。

(エ) (一部略)

今後、高等学校・大学は、入試によって学力水準を担保できるという考え方から、様々な方法で客観的に学力を把握し、それを高等学校の指導の改善や大学入試、大学の初年次教育の基礎資料として役立てていくことを通じて学力水準の向上を図るという考え方への転換が求められる。

④ 高等学校と大学の接続の在り方の見直し

(ア) (一部略)

大学入試の選抜機能の低下が高等学校における大学進学希望者の学習意欲の喚起や指導に影響し、大学の約6割が高等学校の履修状況に配慮した取組が必要となる現在、高等学校・大学は選抜だけでつながる関係から、客観的できめ細やかな学力の把握とそれに基づく適切な指導によって学力向上が図られるよう、共に力を合わせて取り組む関係へと転換することが求められている。

すなわち、大学全入時代を迎えた今日、教育の質を保証する観点から、システムとして高等学校と大学との接続の在り方を見直すことが重要である。

12

(2)改革の方向

- (イ) また、教育の質を保証する観点から、単に個別の学校の努力のみに委ねるのではなく、システムとして、高等学校と大学との接続の在り方を見直していくことが求められる。従来、主に過度の受験競争の緩和の観点から、入学者選抜の改善等が推進されてきたが、今後は、各学校段階で最低限必要な知識・技能等を身に付け、若者が人生の階梯を着実に歩んでいく仕組みを再構築していくことが重要である。
- (ウ) 本答申を契機に、生徒・学生が意欲を持って学んでいくことができるよう、高等学校及び大学の関係者が緊密に連携を図り、これらの点を踏まえた新たな枠組みづくりに向けた主体的な議論を進めていくことを期待したい。
- (エ) この中で提言している「高大接続テスト(仮称)」に関しては、学力を客観的に把握する方法の一つとして一定の意義があると考えられる一方、高等学校教育の在り方との関係上、留意すべき点も種々あることから、高等学校及び大学関係者間の十分な協議・研究が行われることを期待する。また、この新たな仕組みも含めて、今後、高等学校教育全体の質保証に向けた取組が進められることを望みたい。

(3)具体的な改善方策

- ◆ 高等学校段階の学力を客観的に把握・活用できる新たな仕組みづくりについて、高大接続の観点からの取組を進める。
- 調査書の活用を促進する観点に立って、その様式を見直す。また、高等学校段階での学力を客観的に把握する方法の一つとして、高等学校の指導改善や大学の初年次教育、大学入試などに高等学校・大学が任意に活用できる学力検査(「高大接続テスト(仮称)」)に関し、高等学校・大学の関係者が十分に協議・研究するよう促す。(協議・研究に際しては、大学入試センター試験や各大学の個別学力検査との関係、卒業や入学に関する各校長・各学長の責任・権限、高等学校教育に与える影響、高校生の負担感等についての配慮が必要。)

13

高大接続の国際比較：接続の2側面と日本の特殊性

	(1)教育上の接続＝学力把握	(2)進学先選択上の接続＝選抜
アメリカ・欧州	共通テスト ①資格試験(バカロレア、アビトゥーア、GCE)、 ②任意の共通テスト(ACT、SAT)	個別学力試験なしの選抜(書類、面接など) 別個の共通・個別試験があるのは英仏のごく特殊校
日本	なし(高校卒業は高校長の権限)	①個別学力入試 ②AO・推薦入試

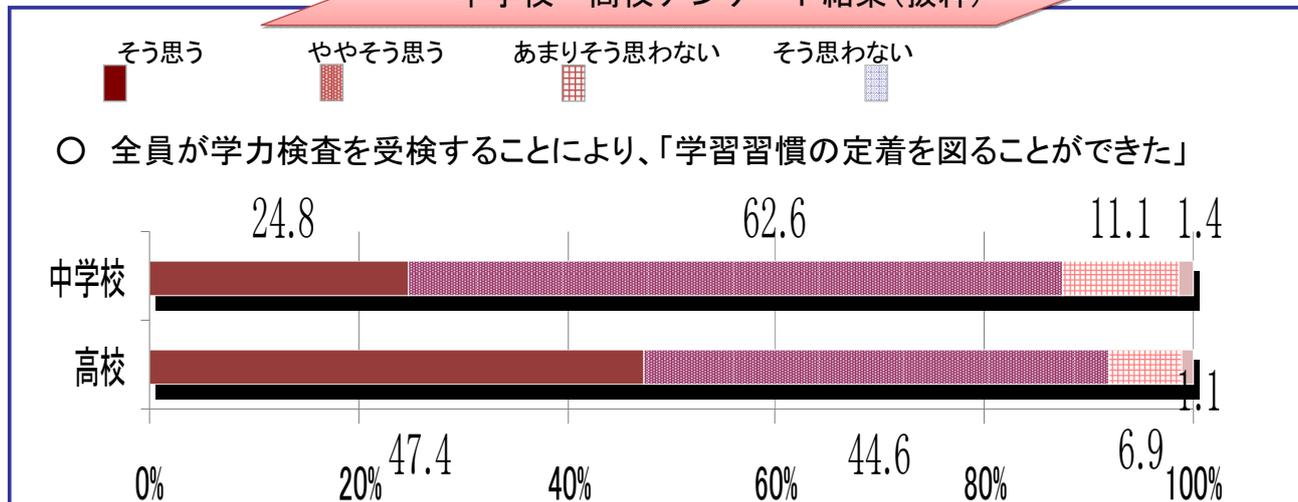
(出典)平成22年11月30日 「今後の高校教育の在り方に関するヒアリング」(第2回)
北海道大学公共政策大学院特任教授 佐々木隆生氏提出資料

14

(参考) 平成22年度埼玉県公立高等学校入学者選抜に関するアンケート結果について

- 埼玉県では平成22年度より、全公立高等学校で入学者選抜を実施。
- その結果を検証するため、県内の市町村立中学校長（423校）及び県内の公立高等学校長（全日制147校、定時制28校）にアンケートを実施。
- その結果、中学校で87%、高校で92%学力検査を受験することにより、学習習慣の定着を図ることができたと回答。

中学校・高校アンケート結果(抜粋)



「出典:埼玉県教育委員会調べ」 15